

## 第2回子ども・子育て会議時のアクションプランからの主な変更点

(令和3年2月 那珂市こども課)

### ● P. 27～P. 29

住宅の建築件数に関する資料を追加しました。住宅の建築は、菅谷地区が特に多く、区域指定対象区域では、中台、津田の五台地区に多いことを示しています。

子どもの数が多いこと、住宅建築件数が多いこと、水戸市、ひたちなか市への通勤途中であることから、利便性が高く保育施設の整備地区として提案した根拠となっています。

### ● P. 37～P. 40

第2回会議資料のP. 34～P. 35の「現状の把握から見えてくるもの(仮)」を、幼稚園や保育施設との意見交換した内容を踏まえて「現状の課題から見えてくる課題と対策の方向性」としてまとめ直しました。

検討すべき現状と課題の項目ごとに対策を考え、基本的な方向性を示しました。

### ● P. 41～P. 43

「保育の供給量の計画」として、資料前段のデータから年齢児ごとに必要な保育供給量を計算して、「短期的必要数」と「中・長期的必要数」を計画値として示しました。資料中のデータからも0歳児から2歳児までの供給量に不足が生じる考察でしたが、数字上の試算でもその通りとなり、幅はありますが具体的数量を記載しました。

### ● P. 44～P. 45

前段の資料から、「整備する保育施設の内容とスケジュール」について、(案)として提案しています。短期的計画では、案1の「地域型保育施設を2カ所」、案2の「既存施設の増設・分園」、案3では「認可保育園の新設」の3案を考えました。それぞれにメリット、デメリットが考えられるため、それも記載しています。この3つの案に対して、委員の皆さまから具体的なご意見をお聞きしたいと考えています。(別紙書面審査意見書)

また、参考として保育施設整備におけるタイムスケジュールを記載し、その次には、中・長期的計画として、令和3年度ないし令和4年度以降にあらためて具体的検討を要するものを記載しています。この短期的計画で選択した保育施設整備に加え、中・長期的計画の検討と調整により、那珂市の待機児童ゼロ対策はもとより、質の高い保育環境の維持に貢献できるものと考えています。

※これらを中心に送付したアクションプランをご確認いただき、忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。(別紙書面審査意見書)